

ナマスデ



特定非営利活動法人

自然文化誌研究会 会報誌

146 号

2022 年 5 月 20 日発行号

『冒険学校むらまつりキャンプ』を開催しました！！

2 年ぶりの再開、小菅村の「多摩源流まつり」は中止でした。今年のキャンプでは山菜採りと調理、久しぶりのシシカバブ、ピザ窯での調理、焚火、川遊び、五右衛門風呂、木下善晴さんの村内散策など、充実したプログラムで小菅村を楽しみました！！



『こすげ冒険学校』のご案内！！

小菅村の自然と文化を満喫しながら過ごす 6 泊 7 日の長期キャンプです。川遊びでは飛び込んだり、寒くないように焚き火をしながら、お風呂も沸かしておこう。

一緒に山と村の暮らしを探検する 7 日間！何をやるかは自分の気持ちと天気によって決まるかな！

日程：8 月 5 日（金）～ 8 月 11 日（木）6 泊 7 日

場所：小菅村 いつものキャンプ場（清水バンガロー）

宿泊：テントで寝袋（一人用で個人就寝、本会で用意）

対象：小学校 4 年生～中学校 3 年生 20 名

指導者・スタッフ：村の人々と東京学芸大学の大学生

参加費：45,000 円（自宅～奥多摩駅の交通費は各自）

備考：コロナ感染対策を初日から共有するため、全日程の参加を原則とし、途中からの参加等は不可とします。

申し込み方法：6 月 24 日（金）必着（締め切り厳守になります）。E-mail かハガキで、氏名（ふりがな）、住所、電話番号、年齢・学年 をご記入の上、事務局までをお申し込みください。定員を超えた場合は抽選となります。

※抽選になった場合について

①参加の可否については 7/1 日（金）までに郵便で通知します。

②兄弟・姉妹間での参加の交代等は無しとします。



※イメージ写真は過去に実施した時のものです。

National Institute For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

宮本茶園

藤野移住準備を始めた2014年12月、北杜市のK氏と一緒に就農相談を受けました。彼は相模原市緑区に移住してからの農業経営をしっかりと考えた具体的な計画を熱く語っていました。同席の私は茶農家になりたい程度の考えしかなく、結局1年半の就農研修を経て2017年1月新規就農したのでした。農業だけでは生活できず相模原市児童クラブ支援補助員のアルバイトに就いたのですが、その時K氏から「掛け持ちはいけませんよ。農業一本で勝負しないと!」言われました。あれから5年、ようやく勝負する勇気が持てました(年金を受け取れる年齢になった事が主な動機ですが)。3月末でアルバイトを辞め、4月からは野良仕事に専念しています。

4月20日開催された藤野茶業部総会、役員改選が審議されて2022年度部長を仰せ付けられました。昨年度末で引退した農家があり、足柄茶北端産地を担う茶農家はいよいよ3軒になってしまいました。55年の歴史を刻む佐野川の茶産業、新米部長ですが若い世代に引き継ぐ環境作りに全力で取り組みます。

・春の茶仕事

宮本茶園は昨夏から豊田肥料の茶樹専用肥料を購入しています。これまで春肥は2月に油粕・米糠・豚糞、3月に農協の茶配合肥料を施していました。今春は2月・3月・4月と3回に分けて1反当り4袋の肥料を施しました。前回ご報告したように体力が衰え20kgの肥料袋を担げなくなり、背負い式肥料散布器を農協に取り寄せてもらって使い始めました。非常に便利な農具で、肩紐の付いた袋にはちょうど20kgの肥料が入ります。軽トラ荷台で詰め込み作業をして、リュックサックを担ぐ要領で急斜面を登って施肥します。6反の茶園に肩掛ナバケツを使って有機肥料を施していた時は1週間、化成肥料でも3日かかっていた施肥作業ですが、新兵器の肥料散布器は和田茶園に半日、上岩茶園に1日で施肥を終える事ができたのです。バケツに入れた肥料を手でつかんで畝間に撒くのは2K作業(きつい・汚い)で、気温の高い季節に行う夏肥・秋肥は流れ出る汗と肥料が混ざり合い体中ベトベトになって難儀しましたが、この苦勞から解放されます!

3月の重要な作業は春整枝です。深く刈り過ぎると5月の摘採時期が遅くなり、足柄茶販売価格に悪影響を及ぼすので慎重に作業しなければなりません。藤野



宮本透

茶業部茶園は栃谷・和田・上川原・上岩の4地区に分散しているので作業日程を相談して人員を集め、部員・ヘルパーが協同作業で複数の機械を使って各地区茶園の春整枝を行います。藤野茶業部で管理している大洞茶園は12日ヘルパー養成講習会最終回として受講生に整枝作業をしてもらいました。夏整枝・秋整枝を経験し浅番刈機の操作を身に付けた受講生は、冬の寒さで赤茶色になった茶葉をていねいに刈って午前中で作業を終えました。修了式を兼ねた昼食で「午後も時間の取れる方は私の更新茶園の整枝を手伝ってください」と厚かましいお願いをしたところ、快くボランティアを受けてくださいました。講習会で刈り残した茶園は27日2人の受講生が再度ボランティアで整枝作業をしてくださいました。朝9時から16時過ぎまで1日かけて製枝していただいた更新茶園、来年の収穫が楽しみです。



今年の荒茶加工は串川工場が老朽化で業務を縮小し、JA県央愛川工場で行う事になりました。4月19日城山茶業部茶園巡回指導に併せて愛川工場見学が行われ、藤野茶業部も参加しました。串川工場には就農研修時に茶農家になるための基礎を教えていただいたので一抹の寂しさはありますが、近代的な愛川工場で加工される荒茶は佐野川茶の相模原ブランド構築に一步近付く製品になると確信しています。



・ちーむゴエモンの活動（第1回相模湖醤油サミット）

津久井各地域のグループが醤油仕込みを行う千木良のヤギ苑ですが、その昔はテニスコートだったそうです。敷地内には元クラブハウスがあって、この施設を活用して新しい翹室が造られる事になりました。3月から改装工事が始まり基礎的な工事が完了した4月15日、お披露目を兼ねて第1回相模湖醤油サミットが開催されました。野良仕事に忙しい時期ですが、各チーム代表・醤油作りに関心のあつる仲間が19名集まり盛況でした。

ゴエモン主宰の高橋さんから醤油作りの歴史やヤギ苑に集う10チームの活動内容が報告されました。高橋さんは2016年に初めて醤油翹を仕込んで以来ずっとゴエモン各チームの醤油仕込みを指導し、今春までに延べ150人を超える仲間と59回も醤油を仕込んでいるそうです。佐野川チーム3回の醤油仕込みでいただいた高橋さんの的確な助言はこの豊富な経験から培われており、「継続は力なり」の大切さを痛感しました。和やかな雰囲気の中で会話は進み、今後の施設利用方法や高橋さんに頼り切っている醤油仕込み技術を継承・発展させる手段としてちーむゴエモンのNPの法人化が話し合われました。（写真④）

佐野川チームの醤油翹は上岩の由森邸で管理しています。コロナ禍でメンバー全員での作業を自粛していますので、毎月の手入れは私とはっちゃんが行っています。新メンバーのはっちゃんはいく帳面な性格で、翹樽が置いてある納屋の換気や手入れに使った道具類の洗浄・消毒に細心の注意を払ってくれます。写真は4月手入れ後の翹樽ですが、熟成は順調に進んでいるようで醤油らしいほのかな香りが漂い始め、明るい飴色の翹表面に浮かぶ大豆は輝いて見えます。毎月の手入れは醤油仕込みの重要な作業、できるだけ早くみんなで一緒にできるようにしたいものです。（写真⑤）



④



⑤

・雑穀街道普及会の活動

3月末に木俣師と雑穀街道を巡回し、久しぶりに小菅村・西原を訪ねました。小菅村では黒澤君や木下穂さん、西原では中川さんや富澤さんにお会いし今後の活動について意見交換しました。中川さん宅では昨秋収穫したキビとアワの精白を相談したところ、「それではこれからやりまし

よう」と納屋から精米機を出して雑穀が精白できるように調整してくださいました。循環式の機械は時間をかけて殻を取り除くのでとてもきれいに仕上がり、消費者の皆さんからは好評です。（写真⑥）

上岩雑穀畑で開催する第8回自給農耕ゼミ（佐野川）は木俣師が植物と人々の博物館メルマガ等で参加者を募っていますが、私はのんびりと野良仕事しながら会場準備をしています。冬の間は暇を見つけては雑木林の倒木や耕作放棄茶園で伐採した茶樹を運んで燃やし、アミーユからいただく薪ストーブの灰を散布しました。茶仕事が忙しくなる前には内郷の動物村まで出向き、糞尿堆肥を肥料の空袋に詰め込み軽トラ荷台に満載して上岩まで運びました。今年は雨降りが多い春でしたが、木灰・堆肥の元肥は畑が乾いた頃合いを見て耕耘機ですき込みました。参加者が見苦しくないよう畑周辺の雑草もこまめに刈っています。自給農耕ゼミ雑穀栽培講習参加者の皆さん、上岩雑穀畑でお待ちしておりますので収穫する秋までよろしくお付き合いください。（写真⑦）



⑥



⑦

雑穀街道普及会の説明冊子が木俣師から送られてきました。橋本さんと手分けして相模湖・藤野・上野原の関係各所に配布しています。藤野観光協会にお願いし「ふじのね」に置かせていただきましたので、藤野駅ご利用の方はお持ちになってください。（写真⑧）先日和田茶園で野良仕事していると、背広姿の紳士が写真撮影にいられました。何と本村相模原市長ではありませんか！公務で佐野川を巡っている途中に和田地区の茶畑景観を視察くださったそうで、ごあいさつした後説明冊子をお渡しして雑穀街道の世界農業遺産登録申請支援をお願いしました。



⑧

穀街道普及会の活動に興味ある方、宮本携帯（090-2205-8476）へご連絡ください。

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.9 その6

「黄昏の太宰府」便り（第2回）

―地方都市が生き残るための条件とは①―

長濱和代（日本経済大学経営学部教員）

太宰府天満宮のHPによれば、本天満宮は、「学問・至誠・厄除けの神様」として、日本全国から年間に約1000万人の参拝者が訪れるそうである。天満宮は全国に点在するが、道真公のご墓所はここだけである。さらに太宰府天満宮から徒歩5分の場所に国立九州博物館がある。国宝級の展示物が、3ヶ月おきに変わって展示されていることもあり、太宰府天満宮とともに人気のある観光名所となっている。この2年余り、コロナ禍により観光客は減少したが、太宰府では地域の内外からの訪問が絶え間なくある。市の人口は約7万2千人で（太宰府市統計資料2020）で、この20年間で約6千人余り増加した。

地域を活性化させるためには、人の往来が必要である。その地域は魅力ある地域をアピールして、私たちが訪問したいと思える場所をいくつも併せ持てると良い。今回は「地方都市が生き残るための条件」と題して、太宰府近隣の魅力あふれる場所と人を紹介したい。

魅力ある街とは

魅力とは心を惹きつけ夢中にさせるような力である。では人を惹きつける力のある街は、どんな条件を備えているのだろうか？

日本経済大学（以下、日経大）の近くには、万葉集に詠まれた吹田温泉（現在は二日市温泉という）がある。私は疲労が蓄積すると、タオルと石けんを持参して、「二日市温泉に行きます！」と大学を出る。自転車を10分も漕げば、温泉のある湯町に到着する（写真1）。公営の『御前湯』は250円で、源泉掛け流しの『博多湯』は350円（土日は400円）で入浴できる。リッチな気分を味わいたい時は、昭和天皇が宿泊された大丸別荘の温泉がオススメで、ここは木造建築の建物と良く手入れされた庭園も魅力である。（1000円で土日のみ入館可能）。泉質はアルカリ単純ラジウム泉で、ラドンを多く含むお湯は、硫黄の香りが心地よく、しっとりとしていて「美肌の湯」として定評がある（筑紫野市観光協会HP）。その酸味のお湯の香りに癒やされ、飲用しては温泉のお湯の濃さを確かめ、温泉で身体が暖まれば、疲労が抜けていくのがわかる。不思議なことに入浴後、2時間は湯冷めしない。これは温泉の効用であろう。自分が訪れる時間帯は仕事を終えた20時前後で、同じ時間帯に通っていると顔見知りの仲間ができる。この地域に住んでおられるシニアの女性が多く、80代を超えているのに元気な美しい肌を維持されている女性も少なくない。お風呂場では必然的に裸のお付き合いとなり、社会動向から日常の仕事の愚痴まで、とりとめなく話のできる「温泉仲間」ができた。身体と心を開放できる場所のあることが、魅力ある街の条件として挙げられる。

この地域の人たちは私の情報収集について概して協力的で、街の知識に乏しい私にいろいろな情報を教えてくださる。昨年末に地域貢献の学外授業で、天満宮の歴史と地域の見所について語っ



写真1 二日市温泉の湯町

注 左手に御前湯、右手に博多湯がある

引用 「九州温泉コンテスト2016」

<https://www.welcomekyushu.jp/onsencontest/hotspring2015s/detail/7>

てくださったゲスト講師は、太宰府市内で開業する整体師の先生で、その講師の情報は温泉仲間のメンバーから仕入れた。これも温泉へ通う効果である。お風呂上がりは、帰路、近所の飲み屋で軽く一杯飲んでから、自転車をひいて大学の隣にある女子寮に戻る。ぐっすり眠れて、翌朝は元気に朝を迎えられる。職場の近くに歴史があり元気を回復できる温泉があるのは、私にとって贅沢な環境であると言える。

次に考えられる魅力ある街の条件とは、人が集まって情報交換できるスポットがあることである。カフェやレストラン、居酒屋やバー、朝市やマルシェなどであれば、食材の質が高く、料理が安くて美味しければ、その場で幸せを感じるだろう。人によってはスポーツクラブや美容室、エステなど、健康や美容にかかわる場で幸せ感を味わえるのかもしれない。他に情報交換できるスポットがあれば教えてほしい。店の主人やそこでの客など、その場で集う人たちと情報交換をしてネットワークが構築できれば、地域とつながり、そこでの生活が生き活きと楽しく感じられるようになる。地域の公民館や、図書館、コミュニティセンターにも行ってみたが、イベントやサークル活動に参加しないと、つながりを見いだすのが難しかった。

私が福岡で地域の人と交流できる場を求めて訪れた場所は、食事処で『武蔵』という焼鳥屋である。公民館を隔てた『御前湯』の隣にあり、写真 1 でも御前湯の奥に灯りがともっているのがわかるだろうか。店の大将は趣味がマラソンで、店内にはにっこり微笑んでゴールを決めた時の写真が飾ってあったので、ランニングを趣味とする私は初対面でも「走る」という共通の話題で話が弾んだ。大将はこの湯町から玄界灘に面した博多湾まで、時には海沿いにある『海の中道』まで 70 キロの道のりをランニングするランナーだった。あるとき移動のため自転車を漕ぎすぎた私は、キリキリと膝が痛むので大将に相談をすると、「博多まで行けば、良い整体師がいる。」と教えていただいた。その整体師は福岡天神の向こうの姪浜で開業されており、プロ野球選手も通われているのだという。太宰府から通うのはやや遠いと思ったが、電車に乗って 45 分の道のりを数回通い（帰路は姪浜から玄界灘を眺めて夕日が沈むのを多いに堪能した）、3 回も通うと整体の効果であろうか、膝の痛みがなくなった。また別の日には、御前湯@二日市温泉を出たあと武蔵へ寄った時は、私は所持金を 1000 円も持っていなくて、ツケ（次回払い）にさせていただいたこともあった。ここは私が生まれて初めて焼酎のボトルを置かせていただいた店でもある。

読者の皆さんには、ぜひ二日市へお越しいただきたいので、お店紹介を続ける。次のオススメ店は『バンバン』という居酒屋で、最新のカラオケ設備まで併設している。知人と赤提灯に魅せられて入店し、地域のお客さんらと親しくなった。南アジアで日本語以外の言語で聞き取り調査をしている習性からか、知らない人に話かけるのは得意である。この店で毎日、晩酌をされていた Y 氏からは、湯町地域の変遷について話を伺い、街の歴史について興味を持つようになった。Y 氏の名字は地域の地名にもなっており、この地域でのリーダー的存在であるといえる。

西鉄二日市から JR 二日市までは徒歩約 10 分の距離があり、二日市中央通り商店街でつながっている。Y 氏のお供として、この商店街の路地にある小料理屋へ行ったことがあった。そこは地域の歯科医師会が会合の後に集まるお店で、その日も歯科医のご夫婦が食事にいらしていた。Y 氏と歯科医の奥さまで話が盛り上がり、私も歯科医の先生とも意気投合。周りにいらした数名のお客さまとともに、料理店に隣接するご自宅兼診療所へ招待いただき、2 次会をして盛り上がった。初対面の私を、自宅に招いてくださるご夫妻の懐の深さに感銘を受け、それ以来、福岡ではその歯科診療所にはお世話になっている。ご夫婦のお人柄と、中央通り商店街に面している地の利の良さから、年代性別問わず、街で人気のある歯科診療所であると思われる。

さらに Y 氏は交友関係が広く、地域に住まうお仲間たちとの会があれば、折にふれ声をかけてくださる。今春は近くの公園で花見をするので参加しないかと誘っていただいた。土曜のお昼前から開始するとのことで、私は大学のオープンキャンパスの担当であったが、早く上がって会の終末に顔を出すことができた。公園で子どもたちが走り回る中で、残していただいた最後のビール 1 杯をご馳走になり、それまでの愉快的な会の様子を聴かせていただいた。Y 氏のように人的資源とネットワークを惜しみなく供与いただける方に感謝する。そして多くの人たちが集う場を貴重な機会をとらえ、自らも共有させていただくことは、地域への愛着を高めることにつながる。最近では、魅力ある街を創出することに自分も加わることができないか、地域貢献ができないか、などと考えるようになった。（文末の【追記】へ）

観光スポットを併せ持つこと～太宰府に隣接する街の魅力と名所

名古屋で生まれ育ち、千葉へ嫁に行って東京で仕事をしてきた私は、太宰府市については天満宮がある街として知っていたが、二日市温泉が位置する筑紫野市については、隣接するにもかかわらず、来福する（福岡に来る）まで、その地名すら知らなかった。二日市も筑紫野も、全国的にも決して知名度が高い地域ではない。そのため遠方から人の行き来は多くはないが、地域の人々の往来がある。太宰府の周辺地域には、こうした地域の人たちが足を運ぶ場所が少なくない。

先程挙げた二日市温泉、万葉集に書かれた吹田温泉であり、当時から現在に至るまで地域の湯治客で賑わった場所であるといえる。二日市温泉の近くには、九州最古の寺として知られる武蔵寺がある。建立は飛鳥時代から奈良時代にかけてとのことで、649年との説もある。先月には樹齢が約1300年と言われる『長者の藤』が美しく咲き（写真2）、地域の人たちの行き来が絶えなかった。また武蔵寺では、毎月第1日曜日の写経がある。さらに夏の土用丑の日（7月）には、『瓜封じ』という行事がある。瓜に願い事を書いて貼り付け、寺に奉納する。その瓜は本堂の前に埋められ、瓜が土の中で溶けるとともに願い事が成就するというロマンに満ちたイベントに惹かれて、私は毎年参加している。ちなみに私の願い事の1年目は博士論文の完成と提出、昨年は書籍出版であった。博論は昨年に提出、書籍は編者をした共著の初校ゲラが上がってきたところである。今年の願い事は何にしようかしらと、今から考えている。



写真2 武蔵寺の長者の藤
(2022年4月)

西鉄二日市駅の近くには、福岡で最古の酒造会社である大賀酒造がある。ここの純米酒は絶品なので、帰省のたびに入手しては配っているの、読者のみなさんにも是非、ご賞味いただける機会があれば幸いである。

この界限には多くの焼鳥店が競うようにあり、優に10軒は数えられる。地域の方によれば、福岡天神まで出なくても、レベルの高い創作串焼きがいただける。ちなみに私の夫は湯町の御前湯の隣にある「武蔵」がお気に入り、ボトルも置いてある。私は「むつごろう」を最良にしているが、「炭火串焼・鉄板いちみつ」や「炭火焼劇場・月空」へも遠方からの友を招待している。大学の仲間たちとは「焼き鳥もつ鍋・太閤」で何度も乾杯をした。

太宰府天満宮に近い、道真公由来の御自作天満宮や、天拝山はぜひ訪れてほしい。天拝山は道真公が何度も通い、自らの無実の罪を天に拝んだ山とされ、小学生の遠足でも歩ける標高2百メートル級の山である。毎朝、頂上でラジオ体操をするために登られるシニアの方々や、地域の方が掃き掃除をしている様子も見られる。頂上からは、街を一望でき、低山で1時間ほどのコースではあるが、歩いたことを実感できる。太宰府天満宮と九州博物館のあとは、二日市温泉とその周辺を往來すれば、さらにもう一泊しようかと、この地に滞在したくなる日程は伸びるであろう。

地方で魅力的な住処をどこに持つのか

私は日経大福岡キャンパスに着任して以来、大学に隣接した女子寮に住んでいる（写真3）。「オックスフォードハウス」と呼ばれ、日経大が提携しているオックスフォード大学や、イギリスの寮の雰囲気を感じられる洒落た作りになっている。大学の研究室まで徒歩で5分とい



写真3 大学の女子寮

引用 日本経済大学「オックスフォードハウス」（女子寮）
https://fukuoka.jue.ac.jp/facility_fukuoka/oxford/

う便利さである。寮内には天然温泉があり、コロナで閉館しない限りは 17～23 時まで入浴が可能であり、さらに寮費は無料（ただし寮生の指導あり）という条件から、私は採用と同時に入寮を決めた。その当時から教員部屋の空きがなく、学生と同じ棟で同じタイプの部屋に住んでいる。そのため入寮当初は、学生の大きな声や足音が夜遅くまで響いて聞こえることや、朝方に部活の朝練かアルバイトのためか、移動する学生のドアの開閉音などが気になっていた。入寮 3 年目となる今では、そうした環境に順応して気にならなくなった。部屋の内部にはキッチンがない、風呂がない、全面積で 8 畳ではモノが増えて狭く感じられると文句を言えばキリがないが、食堂で朝と晩に有料ではあるが食事を提供いただけることもあり、研究に専心するための職住隣接環境を最優先してきた。

そうなると湯町へ出かけない限り、通常は大学と女子寮との往復により朝から晩まで学生とともに過ごしていることになり、心安まる時がない。さらに写真 3 の遠景に見られるように周囲は山で囲まれ、地方の自然が豊かな環境に身を置いていることを折にふれ思い出し、窓の外を見渡しては、何処へ引っ越しをしようか思いを巡らせてきた。そこで大学周辺の物件として、アパートに戸建、賃貸マンションに古民家などを、夫や友人らを連れてあちこち見て廻ってきた。

東京の自宅と大学を行き来されている教授からは、西鉄二日駅前のマンションがコストパフォーマンスも良いからと勧められて、すぐに見に行った。2DK で敷金礼金なしの 45,000 円で家賃は申し分ないが、駅に近すぎてアナウンスや踏切の音が聞こえ、入り口がオートロックでないのはいかがかと考え断念した。他方、オートロックのあるビジネスホテルのようなマンションがいくつも西鉄と JR の間にあり、理想的住居環境のように見えたが、中に入れていただくと値段の割には部屋が小さく、静かではあるが女子寮の部屋と変わらないようにも思われ、魅力が感じられなかった。

それでは部屋がいくつもある戸建てはどうか。3～4DK で築 50 年前後の戸建ては、1 千万円台で大学の住宅街に多く売りに出されている。リノベしたら 2 千万円前後であり、理想の木造戸建て住まいである。ご実家が大学近隣にある佐藤宣子先生@九州大学に相談したら、「太宰府でそんな大きなおうちに住んで大丈夫なの？」と言われた。「大丈夫？」とは掃除やセキュリティ、さらに今後の修繕についてであろう。4DK もある家は、仕事持ちの単身者にとって維持するのが難しいかもしれない。

結果、身の丈にあった広さがありセキュリティが完備しているマンション、または広すぎない家が良いのだろうか。森林管理と利用について研究する立場からはすれば、木造の住まいに憧れがある。写真 3 の遠景にあるような林地に近い場所、または中山間地域に家を所有するのも悪くないだろう。そうなると通勤は大学から遠くなるため、大好きな自転車での移動は難しくなり、車を所有する必要があるだろう。最近では木造の高層建築物も出現しており、福岡にはその波はまだ来ていないようであるが、もっと私の収入が増えて貯蓄が貯まったら、木造のマンションを建造して馴染みの仲間とシェアをするのも悪くないかと思う。などど、あれこれ妄想は尽きない。

実際に 1 人暮らしの女性はどんな場所に希望して住んでいるのだろうか。湯町で温泉に行くたびに場所と時間を変えて、聞き取りをしていると、湯町が好きで住んでいるシングル女性は少なくない。お連れ合いがなくなり、1 人暮らしになったので、好きな時間に温泉に入りたいから湯町に引っ越ししてきたという女性に、この 2 年の聞き取りで少なくとも 2 名は出会った（週に 1 人は知らない方に声をかけているだろう。）。家を出たら、そこは湯町で温泉の香が漂い、朝から好きな時間帯に温泉に入りにいけるという生活には憧れる。先の女性らのように湯町は老後を迎え、黄昏時を過ごす女性にとって、理想的な場所かもしれない。そうだ、次の住まいは湯町がいい。

時間を見つけては二日市温泉へ通う私に、「コモンズ論（共有地）の研究として森だけでなく、温泉の研究をしてはどうか」と、昨年度末の環境経済論の授業で、ゲスト講師として来福された林野庁の知人に勧められた。筑波大でお世話になった遠藤先生@兵庫県立大学らが温泉コモンズの研究をされていたことから、新規性は低いと思われるが、この地の歴史と湯町におけるコモンズ的利用として、事例研究は可能であろう。

結局、魅力的な住処を選び取るのは本人次第であり、収入の範囲で優先順位を決めて地域や場所を選択し、与えられた住居について魅力を感じられるような工夫と意識が必要だと思われる。心を惹きつけ夢中にさせる

ような魅力を持つ家にはどんな条件が必要なのか、私は自分の考えを整理しなければ、次へ進めないようである。

【追記】

太宰府市&大学発の地域貢献として、以下の日程でオンライン講座を開催します。ご都合よければ、読者の皆さまも是非ご参加ください。申込はこちらまで。

https://www.jue.ac.jp/for_alumni/public_program/0723-2022/

○日時 7月23日(土) 13時30分～15時

○講座名 公共財としての森林—日本の森で起きていること

○内容 森林は私たちの暮らしに大きく関わっています。戦後、スギやヒノキ等が植林された結果、成長したスギが花粉を飛ばし、手入れ不足で災害を招く事例も起きている。なぜ、このようなことが起きるのか、日本の森林・林業の課題と、これからの森の使い道について考えます。



植物と人々の博物館
Plants and People Museum

Vol.27

2005年に第1号を発行した「民俗植物学ノート」も今年3月に第15号を発行しました。電子書籍としては、「降矢静夫 書簡集(我孫子昭二 宛)」も新たに加わっています。国内外の調査研究の記録としてHP上(<http://www.ppmusee.org/goods.html>)で公開されていますので、是非ご覧ください。

ハイフレックス方式(現地・ZOOM 併用)で開催している「自給農耕ゼミ(小金井)」と「環境楽習会」は、現地での実習を兼ねた「第8回自給農耕ゼミ(佐野川)、5/22 実施予定」や「第7回環境楽習会 野外巡検、6/26 実施予定」も企画され、活動としても広がりを見せています。新しい人と人の繋がりや学びの場として、是非ご参加ください

(<http://www.ppmusee.org/event/pg651.html>)。

丹波山村～小菅村～上野原市(桐原)～相模原市(緑区)に連なる生物文化の継承を目的とした広域連携「雑穀街道普及会」についてのパンフレットを作成しましたので、この機会にぜひご参加ください

(http://www.ppmusee.org/_src/11238/ms22n2.pdf)。

<ご案内>

第7回環境楽習会

日時: 6月26日(日) 10:00 出発～12:30 解散 一次案内は下記です。

<http://www.milletimplic.net/university/pelcivicu/pel7an1.pdf>

集合時間・場所: 9:45、西武国分寺線/鷹の台駅。解散場所: JR 中央線/国分寺駅

プログラム: (定員: 15名) 資料代: 200円

野外巡検案内解説者: 福田恵一さん(羽村第一中学校)

小金井とかかわりの深い玉川上水と恋ヶ窪分水、野川源流部の姿見の池を巡検し、水環境と暮らしの歴史を学ぶ。

申込み連絡先: kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男(企画室事務担当)

申込者に詳細案内をお送りします。

第8回環境楽習会

日時: 8月28日(日) 10:30～12:00

場所: 小金井市環境楽習館およびオンライン(定員: 20名、ZOOM: 100名)

話題: (仮題) 市民大学の試み

話題提供者: 深澤まどかさん(シブヤ大学)

シブヤ大学の活動から、市民大学の重要な役割と可能性を学ぶ。

申込み連絡先: kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男(企画室事務担当)

『INCHの楽しい仲間たち』 vol.8 その18

沖縄や北海道より気分的に近い島・台湾（その3） 佐伯 順弘（岐阜県）

Travel planning

DAY1 5th JAN NGO→TPE
DAY2 6th JAN TPE→KHH
DAY3 7th JAN KHH ★
DAY4 8th JAN KHH
DAY5 9th JAN KHH→TPE→NGO

DAY3 (7JAN2017) 高雄

0700 覚醒。ぐだぐだと過ごす。0800 起床。

0820 朝食。ホテルは特に朝食付きを選ぶわけではない。その街の人が食べているものを食べてみたいし、多くの場合その方が安上がりだ。ついでに日本のほとんどすべての義務教育学校で指導されている「早寝早起き朝ごはん」などというものに従うような素直な人間ではないので、必要のない朝食ほど体に害のあるものはないとも思っている。野生動物を見てみればいい。奴らは朝食を摂ってから行動するのではなく、行動後に食事をする。ならば、自然の一部である人間もそうすべきなのではないか。もっとも江戸時代までは一日二食、昼食と夕食だけだったという話も聞くので、現代人のように腹も減っていないのに何も考えず無用な熱量を取り込むのは最近の風習なのだろう。食事は車の給油とはちがひ、消化管に入った途端、消化が始まり、自動的に糖分が吸収され、使われないのに血中濃度が急上昇する。糖はインスリンの働きにより強制的に細胞に取り込まれ、細胞内でエネルギーとして使われなかったものは貯蔵されていく。急激に血糖値が上がれば、生命の危険を感じた体は急激にインスリンの量を増やすことで逆に低血糖を生む。血糖値が安定しなければ精神の安定もない。つまり、イライラして暴れる若年層ばかりか壮年、老年が増えるのもむべなるかなというところだ。車の給油ならば、タンクの容量以上は入らないし、エンジンをかけなければそのまま保存されるから車体には悪影響がない。しかし、人体はそうはいかない。だから、考えもせず無条件に朝食を食べるのではなく、腹が減っていた場合のみ、食べるようにすべきだ。腹が減っていないのに強制的に食べさせられることは断固拒否すべきなのだ。さらに給食と呼ばれる強制栄養摂取作戦に対しても戦いを挑むのが望ましい。腹が減るほど動いたり、腹が減るほど頭脳を働かせたりしていないお気楽な人間が時間割という理由だけで無理やり食べるから糖質中毒になるのだ。その結果、さらに糖質が欲しくなり、糖尿病、肥満症を発症するのだ。食糧自給率が低いなどと嘆いているのであれば、麻薬中毒患者と同等の糖質中毒患者の治療および不必要な糖質の取り締まりを強化し、体が欲していないのに中毒症状として糖質を食べたがる中毒患者を容赦なく逮捕し、芸能活動など二度とでき

なくなるようにするべきではないか。麻薬取締官と同等の責務をもつ糖質取締官を増やし、糖質中毒者を撲滅すべきではないのか。無駄な熱量を取り込ませるだけの糖質を製造したり流通させたりしている者も同様に取り締まるべきだ。その過程で日本全体の食糧流通量も抑えられ、当然フードロスなる罰当たりな現象も消えていくだろう。消費量が減るのだから、相対的に食糧自給率は上がるのだ。二宮尊徳も渋沢栄一も「道徳のない経済は罪悪である」という。金儲けの機会を逃さないために食糧を大量廃棄するような経済が道徳的なはずはない。腹も減っていないのに、フォアグラを作るための鴨に穀物を流し込む如く児童生徒に完食を強制することも道徳的ではない。



おっと、目の前には空腹を満たす以上の料理があった。空腹だから食べるのではなく、その土地の食文化に対する尽きることのない探究心から身を犠牲にして食べるという崇高な使命感と共に心を込めて食事に対峙した。和洋折衷という言葉があるが、ここでは中洋折衷というか、中洋和混合というか判断しにくい料理が並んでいた。それだけに調査も簡単ではない。盛り過ぎるのは下品であるし、何度も往復するのもまた下品。このホテルでは何度もとりに行くことについては特に問題はないようだが、ホテルによっては眉を顰められる場合もある。海外に出た日本人が当然持たなければならない「一人一人が日本代表」という心構えからすれば、ここで無様な振る舞いをすれば、それはすなわち日本の恥、国辱となろう。様々な状況を考慮しつつ、無事に朝の調査活動を終え、部屋に戻る。今日は高雄日本人学校の跡地を見に行くことと足つぽマッサージを受けることを課題としているのだが、朝から頑張っていくこともない。ゆっくり過ごす。旅で大切なことは疲れるまで活動しないということだ。健康であってこそ感性も磨かれ、素晴らしい体験ができるのだ。

1040 衣類をクリーニングに出す。

1224 午前中十分休養を取ったので、出かけることにした。既に空腹を感じていた。昼食である。



「食蔄」[食蔄]大王（正確には食でなく食編）が店名だが、「金温州」（正確には金ではなく、温州の部分の中が人）が店名だかわからないが、ワンタン麺の店である。朝食を摂ってからそれほど時間が経っているわけではないが、食の追及のために、わが身を犠牲にして探究心を納得させねばならない。有名店らしく、かなり混んでいたが、こちらは身軽な一人旅。誰と相席になっても構わないし、そこそこ待っても構わない。間もなく店内に入ることができ、1人用の席が空いていたためあっさり席の確保ができた。



ワンタン乾麺（汁なしワンタン麺）は日本にあるようなものではなく、肉団子が餃子の皮を纏っているという感じで食べごたえがある。この店のワンタン麺は細切り肉と細切りザーサイが乗っているのが特徴とも言える。100 元にふさわしいボリュームである。

1300 近くの鹽埕埔站から MRT で文化中心站へ行く。



1330 高雄日本人学校跡地。ここに来て何もなかったことはわかっていた。台湾の学校の空き教室に移転したと聞いている。それでも何かを求めて来てしまった。当然のことながら、楽しいことばかりではなかった、納得できることばかりではなかった。しかし、多くの学びと多くの出会いがここにはあった。それは間違いない。何か当時のものが

残されていないか、今はもう駐車場になってしまった跡地をぐるりと回ってみる。

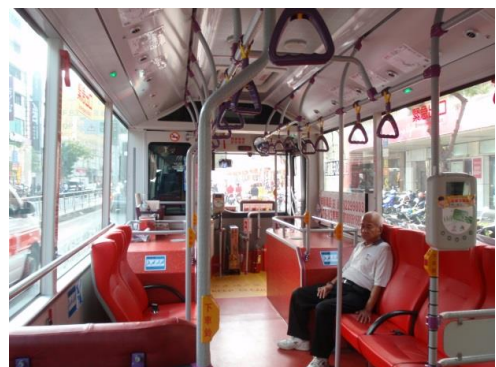


これはバナナだったのだろうか。南国らしく、敷地内にはバナナばかりか、マンゴー、竜眼、ライチなどが生えていた。池にはメダカではなく、色とりどりのグッピーが泳ぎ、それを捕食しているであろうブレコもいた。ライチが生る季節になると台湾人の用務員さんが収穫して、昼食の時間に各教室へ持ってきてくれたものだ。

心が麻痺した感覚を味わいながら、暫しそこに立ちつくしていた。流すべき涙もない。ただ時は流れ去るばかりだ。目を移せば、高雄の街は今も活気にあふれ一時の感傷など一瞬にして霧散させてしまう。自分でもなぜそうしたのかわからなかったが黙とうを捧げ、高雄日本人学校跡地を後にした。



学校帰りに通った道。食べ物屋が並んでいる。学校のすぐそばなので、よく食べに来了。いろいろな店があるので、飽きることはなかった。通勤はバイクだったが、既に台湾の運転免許証も失効しているので、今回はのんびり歩いてみた。歩きすぎて疲れたので、バスに乗った。飲みに行くときなどよく使った路線なので、安心して乗ることができた。



交通カードで乗れるので、小銭の心配もいらない。バ

ス停のアナウンスは聞き取れるが、表示も出るので安心だ。

1450 ホテルに戻る。疲れた、自分が過ごした高雄日本人学校の校舎が消えたことに精神的ダメージを受けていたようだ。学生の頃からの習性で精神的ダメージを受けると眠くなる。少し寝た。

1600 ホテル発。まずは近くのMRT 站で交通カードに100 元チャージ。バスに乗って、足つぼマッサージに向かう。



「左脚右脚」というチェーン店。まずはフットバスで足を温める。その間にも首や肩をマッサージしてもらう。足を拭いてもらい、足つぼマッサージ。必要事項なので「ちょっと痛い。」という言葉は最初に覚えた。マッサージを終え、昔よく言っていた苓雅夜市、自強夜市に向かう。夜市は道の名前がつくことが多いが、道が交差しているのこういうことになる。

1840 蒸餃子の店に入る。親父さんは顔を覚えていてくれて、笑顔で迎えてくれた。こういう地元感がいい。



三鮮蒸餃+空芯菜の炒め物 90 元。台湾の食べ物盛りが多すぎることなく、いい腹具合になるのがすばらしい。

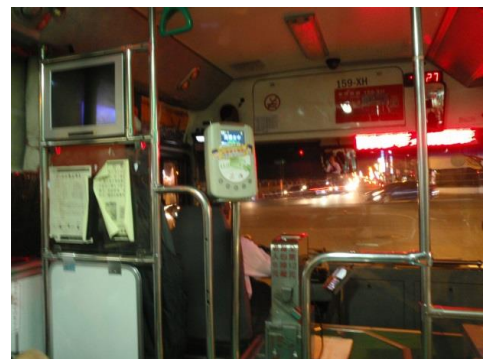


この雑多な感じがいい。多くの店が集まっていて、台湾の人々は基本的に夜市で食事をする。家で料理をすること

は少ないらしい。値段もお手頃で、栄養バランスをとるのも難しくない。素食という肉を使っていない料理だけを出している店もある。セルフサービスで料理を取り、後で会計という店も多く。言葉がわからなくても大して困らない。住んでいけば、何度も同じ状況を体験するので相手が何を言っているのかなんとなくわかってくる。言語を習得する近道はそこに住むことだと言われるが納得できる。

蒸餃子の店を出てから、すぐまた行きつけの揚げ物屋に立ち寄り、トリカラを買う。日本のコンビニに売っている唐揚げと似たようなものだが、おいしさと安さはこちらの方が上だ。揚げ物屋の夫婦も顔を覚えていてくれて、「好久不見（久しぶりだね）」と声をかけてくれた。この辺りの言葉も比較的よく使う言葉なので今では自然に出るようになった。

1926 バスでいったんホテルに戻る。



シャワーを浴びて、旅記録の整理をして、出かける準備をする。

2040 行きつけのパブへ向かう。以前、歩いて5分くらいのところに住んでいたが、今泊まっているホテルは少し離れているので、バスで向かう。この路線も良く使ったので安心して乗ることができる。パブのドアを押すと、知り合いのスタッフが笑顔で迎えてくれた。当然台湾の人々もいるが、欧米系と思われる人たちも多くいるせいか、BGM は洋楽が多い。80s から最新曲まで幅広くかけている。この店で知った曲も少なくない。ウィスキーの品ぞろえもなかなかで、ビールで始まって、ウィスキーで締めるというパターンがいつの間にか出来上がった。カウンターでMTV を観ながら飲んでいると話しかけてくれるスタッフも多く、ゲームを挑まれることもあった。（もちろん、負けると1杯奢らされるのは定番である。）台湾語を習ったり、C-POP の最新動向を教えてもらったりした。今回もあの頃と変わらない風景がそこにあった。

「月日は百代の過客にして、行きかゝ年もまた旅人なり。」唐突に浮かぶ奥の細道。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。」続いて浮かぶ方丈記。変わらないうと思えても、すべてのものは変化していくのだ。改めて認識しつつグラスを傾けていた。

（本日の会計）ワンタン乾麺 100、交通カードチャージ 100、足つぼマッサージ 1050、蒸餃 90、トリカラ 50、パブ 1200、担仔麵 40、タクシー 85 3日目現金支出合計 2715 元 (つづく)

○ INCHまつり（ライブ）開催のお知らせ

秋の一大イベント「INCH 祭り（ライブ）」を開催予定で進めています！ライブをBGMに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら過ごしませんか！！音楽を愛する方は楽器持参で、腕に自信のある方もない方も、歌わない方も、お酒を飲まない方も、久しぶりの小菅村の方も、ぜひぜひお越しください♪音楽しない方はのんびりしてても、もちろんOKですよ～♪毎年おなじみのバーテンダー「ひでやん」のバーを開きたいと思っています！！

■日程 10月1日（土）16:00 開演～10月2日（日）日帰りもOK

※開催の決定は、9月にホームページで再度告知します。

■対象：子どものみの参加はできません。

■費用：日帰り 1,500 円 宿泊 4,000 円 食事付

■BARはカンパ制です。 ■会場：小菅村のいつものキャンプ場

■お申し込み：コロナ感染対策が続くかもしれませんので、9月24日までに事務局にご一報ください。



○ むらまつりキャンプの感想 スタッフ 川見美鈴さん（大学1年生）

キャンプお疲れ様でした。制限がある中でしたが、最高に楽しかったです。私は今回のキャンプではプログラムに参加したり、子供と遊ぶのではなく雑用や食事係をメインに行っていました。全体を眺めている機会が多かった為、運営の方々の努力やスタッフの精力的な活動を目の当たりにし、自然の中で子どもたちがのびのびと過ごすために、たくさんの労力が払われていることに気がつきました。参加者時代には知りもしませんでしたので、自身の成長を感じるとともに、今まで携わってくださった方々に感謝したいです。

そして私にとってこのキャンプは自然の中で過ごす数少ない機会であると共に、家族でも学校でもない、全く別のコミュニティの人々と交流する貴重な機会でもあります。様々な人と過ごす中で学ぶことは多く、それは人生の先輩の言葉であったり、子どもたちの何気ない行動であったりします。得られた学びを忘れずに、自分の成長に繋げたいです。改めてみなさん本当にありがとうございました

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称INCH（インチ）。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40年以上にわたって活動を続けています。2004年からNPOとして再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座（のびと研修会）』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額（1～12月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000円 一般会員：5,000円

学生会員：3,000円 賛助会員（個人・団体）：10,000円

家族会員：6,000円 準特別維持会員：50,000円

特別維持会員：100,000円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000円

雑穀街道特別会員（小菅特別から変更）：1口1,000円から

・成合基金（冒険栄誉基金）：「成合基金」とご記載してください。

・寄付：「寄付」とご記載してください。

①郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

②ゆうちょ銀行：10040-94794501

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマス 146号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌
＜発行日＞2022年5月20日
＜編集＞自然文化誌研究会 事務局
＜発行＞特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

＜事務局＞〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2
TEL：0428-87-0165・090-3334-5328（事務局黒澤）
E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp
H P： <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>